

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	令和5年度 第1回都市研究会意見交換会 (CPD番号 5-3)
主催	(公) 日本技術士会東北本部岩手県支部都市研究会
日時	令和5年9月8日(金) 16:30 ~ 19:00
場所	盛岡バスセンター
参加人数等	古山、海野、平井、高島、永田、菅原、村木、川野、佐藤(会長)

活動内容

令和5年度第1回都市研究会意見交換会は、次のとおり、中ノ橋一丁目地区第一種市街地再開発事業と盛岡バスセンターの現地視察と、今年度の活動について参加者で意見交換を行った。

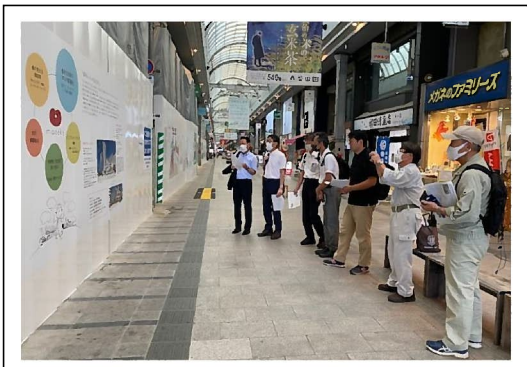
1 中ノ橋一丁目地区第一種市街地再開発事業(monaka)の現場調査(別添資料参照)

- (1) 施工面積：約0.8ha、事業費：約91億円、事業期間：R3～R9
- (2) 西街区：地下1F、地上4F、用途：商業施設(R6完成予定)
- (3) 東街区：地上22F、用途：マンション(R9完成予定)



2 盛岡バスセンター整備事業(都市構造再編集中支援事業)の現場調査(別添資料参照)

- (1) 面積：5,556㎡、地上3F(R4.10開業)
- (2) 施設整備費：約16億4千万円(公共施設：5億3千万円、にぎわい施設：11億1千万円)
- (3) 事業コンセプト：バス路線で地域をつないできた歴史や結びつきを生かし、人々だけではなく地域の魅力をつなぐ拠点となる「ローカルハブ」
- (4) 公共施設：バスターミナル、待合室、駐輪場 にぎわい施設：ホテル・温浴事業、不動産事業



3 今年度の活動に係る意見交換

研究会参加者の近況と自己紹介後、今年度の活動について意見交換を行った。

意見交換では、盛岡市の都市構造をテーマに議論が行われた。参加者からは過去の歴史を振り返ることの重要性が指摘され、若い世代に都市計画の思想と背景を伝える必要性が強調された。

また、子供向けの講座や研究会としての目標を持って活動していくことが提案された。

(1) 過去の都市計画の歴史を振り返ることの重要性

参加者の一人が過去の都市計画の歴史を振り返ることが重要であると指摘した。過去の出来事を理解することで、現在の都市計画に関する判断を下す際にも参考にできるという。

(2) 若い世代に思想と背景を伝える必要性

参加者の間で、若い世代に都市計画の思想と背景を伝える必要性が強調された。

現代の若者、都市計画に従事している職員においても、都市がどのような経緯で形作られてきたのかを知らないことから、過去の出来事について教える機会が必要であるとされた。

また、古山さんからは、浦安市のまちづくり読本のように、盛岡市のまちづくりの経緯を伝える資料を整理したいという話が出た。また、資料作成に当たっては、ターゲットを誰にするかという視点を持って取り組むことが留意点としてあげられた。

(3) 研究会としての目標

研究会として目標を持って活動していくことが提案された。今後、何年かの計画を立て、大学関係者や行政職員等を巻き込みながら活動を進めていくことも考えられる旨の意見もあった。

また、岩手県開催時の「地域産学官と技術士との合同セミナー」において、発表できるように内容を整理していくことも提案された。

(4) 行動計画

若い世代に都市計画の思想と背景を伝える資料、子供向け講座開催に向けて、浦安市のまちづくり読本から盛岡市の組み立て案のただき台を作成して、研究会の中で議論することとした。

また、次の研究会の進め方は、古山氏と佐藤で検討したうえで、研究会メンバーに提示していくこととした。

以 上